

術前術後AFP-L3分画は肝細胞癌術後早期および長期経過後の再発予測に有用である

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阪井, 守 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31346

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2878 号	氏 名	阪 井 守
審 査 委 員 会	主 査 教 授	萩 原 誠 久	
論文審査の要旨 (400 字以内) 本研究は肝細胞癌(HCC)の早期発見に有用であるといわれる AFP-L3 分画(L3 分画)と HCC の早期および長期経過後の術後再発との関連を検討したものである。当施設での HCC 初回切除 154 例を対象とし、術前 L3 分画および術後 L3 分画を 3 群(Ⅰ ; <0.5%、Ⅱ ; 0.6 to 9.9%、Ⅲ ; ≤10%)に分類し、術後 1 年以内における早期再発および術後 1 年以降に再発した長期経過後の無再発生存率について検討した。術後 1 年以内での術前測定値の再発診断率の比較検討において、L3 分画は HCC の他の 2 つの腫瘍マーカー(AFP および PIVKA-II)より特異度が有意に高かった。術後 1 年以内再発では術前術後ともに再発率に有意差を認めたが、Ⅱ 群についても術前 50.0%, 術後約 40%の再発率を示した。長期経過後再発では、術後は 3 群間に有意差を認めたが、術前はⅠ 群と他の 2 群には有意差を認めるも、Ⅱ 群とⅢ 群の間には有意差を認めなかった。 以上の結果, AFP-L3 分画測定が HCC の術後再発予測に重要であることが確認された。 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表)【学校教育法学位規則第 8 条】			